



一般社団法人

21世紀の新しい企業を創造する経営者集団

日本道経会

会報 令和7年
—2025年—

2 No. 303
月号

本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数/互敬塾塾生
716社 / 449名

(令和7年2月1日現在)

巻頭言

人づくり経営と、三方よし経営

(一社)日本道経会 副会長
(株)旭ハウジング 代表取締役

林 章浩



令和7年も1か月が過ぎましたが、アメリカではトランプ大統領の2度目の政権が始まり、多くの大統領令の署名や関税問題が注目され、ロシアのウクライナ軍事侵攻は依然として続き、中東の紛争も終息の兆しが見えません。

日本国内では、自民党が単独政権を失い、物価の高騰や賃金の上昇が急速に進む中、103万円の壁など多くの制度の見直しが議論されており、国内情勢も予断を許さない状況です。

一方、本年4月に開幕する大阪・関西万博では、未来に向けた夢のような新技術や製品が発表され、またAIをはじめとする革新でこれからの生活や産業が大きく変わっていくとしています。

「大勢には善きものと悪きものとあり。大勢に逆行または順応するものは滅ぶ。順応しつつ真理を守るもの残る」『道経一体経営原論』P.255

社会情勢に一喜一憂せず、どのような状況であっても真理を追い求める経営が必要であり、私達は日本道経会の会員として、道徳と経済は一体であることを学び、実践してくよう日々努力しています。

日本道経会が掲げる2つのスローガン
「未来を拓く企業の姿は三方よし」

「企業の繁栄は人づくり経営にあり」

経営者がモラロジーを基本に品性を高め、道徳観を養い、理念を掲げ、社員と共にその実現邁進するという、経営者を先頭にした人づくりが、社内に浸透し、お客様、関係者の皆様、地域社会、国家、世界を良くする三方よしに繋がっていくのだと思います。

「創業にも守成にも苦勞して人を愛す」

弊社は、106年前の1919年、祖父が14歳の時に木こりとなり、その歴史が始まりました。大東亜戦争に出兵し、戦後の大変な時代を乗り越え、モラロジーの教えに出会い、諸伝統への感謝と報恩の精神を高め、二代目となった父も、祖父の心を心として進み、オイルショックやバブル崩壊等の困難な状況を乗り越えました。

そして私は2001年に比較的順風な状態で社長を引き継ぎました。

なかなか順調には進まず、様々な課題を持ちながらも、4代目として専務を担ってくれている長男と共に、道経一体経営の実践により必要とされる企業を目指して進んでおります。

私達の学びの基盤であります「日本道経会」は、各支部の益々の活性化につながるよう、それぞれの委員会が活動を積極的に行いながら、そして外部に向けての発信も高めながら会員増強も目標として進んでまいります。今後とも皆様のご支援とご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

一般社団法人
日本道経会
スローガン

理念 未来を拓く企業の姿は三方よし

活動 企業の繁栄は人づくり経営にあり

京都支部 ファミリー忘年例会



12月3日（火）18:00より、ホテルオークラ京都にて「日本道経会京都支部 ファミリー忘年例会」を盛大に開催いたしました。

本年の忘年会は例年とは趣を変え、会員の皆様だけでなくそのご家族にもお楽しみいただける内容とし、ジャズシンガー長谷川恵美様とサクソ奏者山口マリ様をお迎えして、2部構成のジャズディナーショーをお届けいたしました。

第1部では、開会直後からコンサートが始まり、長谷川様の圧倒的な歌声と山口様の魅惑的なサクソ演奏が会場を包み込みました。素晴らしい音楽に耳を傾けるひときは、まさに贅沢そのものでした。

第1部終了後には、森邦明代表幹事よりご挨拶と乾杯の音頭を賜り、その後、ホテルオークラの豪華なディナーを堪能しながら、和やかな歓談の時間をお楽しみいただきました。

デザートが配膳されたタイミングで、第2部のジャズコンサートが開演。美味しいお酒とともに、心躍るジャズの生演奏を楽しむ贅沢な時間は、参加者の皆様にとって格別なひとときとなりました。

ジャズコンサート終了後には、お楽しみ抽選会を開催いたしました。生田泰宏日本道経会会長、森邦明京都支部代表幹事にも景品をご提供いただきました。当選された皆様には、それぞれ素敵な景品を贈呈し、大変盛り上がりました。

中締めのご挨拶は村山造酢株式会社の村山様にお願ひし、温かい言葉で締めくくっていただきました。また、女性参加者の方々には、お帰りの際にポインセチアをお渡しし、大変喜んでいただけました。

今回のファミリー忘年例会は初めての試みでしたが、日本道経会京都支部の結束をより一層深めることができたのではないかと思います。

最後になりましたが、お忙しい中ご参加いただきました皆様、素晴らしいコンサートを披露していただいた長谷川様、山口様、そしてホテルオークラ京都のスタッフの皆様、また幹事の皆様のお力添えにより、素晴らしいファミリー忘年例会を開催することができました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

京都支部 田中 良明



長崎支部12月例会



令和6年12月19日（木）18時30分より、サンプリエールにて、佐藤薬品工業(株)代表取締役 佐藤雅大様をお招きし、「品性資本の経営～さとやくのリーダーとして～」のご講話をしていただきました。

まず会社紹介と自己紹介をしていただきました。奈良県橿原市にて1947年に創業、1951年に設立、資本金3億円 従業員数711名（2024年4月1日時点）。佐藤社長は、平成18年に入社、平成28年に役員、令和4年に3代目の代表取締役に就任されました。

先代より培ってこられた道経一体経営は、役員、社員とともに定期的に研修が行われ、品性の向上、一致団結して道徳的な企業体質を作り上げることを根本に実行されている事に感銘致しました。

さとやくのリーダーとして、2022年6月社長就任に伴い2030年のあるべき姿、なりたい姿を見据えてVision“S”2030を掲げ、会社のナショナルブランドを創り、より多くの人々の健康に奉仕し、そしてより多くの人々に親しんでもらい、社会の役に立つことで、社員や家族が誇りに感じ、イキイキ・ワクワクする企業へ成長することを目的に経営基本方針を策定されました。

社是・品質方針・経営ビジョン2030（経営基本方針）を記載した『社員心得帳』を社員全員に配布し、社員とともに共有されています。また、地域貢献として「さとやく秋の感謝祭」などを実施されています。

日本道経会を代表する企業として3年後、5年後どのように発展されていくのか大変興味深く思っております。我々も少しでも近づけるように、社員とともに共有できる企業を目指します。

例会終了後に懇親会を行い、佐藤社長にも出席していただき、楽しいひと時を過ごすことができました。会員の皆様、ご出席いただき誠にありがとうございました。

副代表幹事 樋上 修久



福岡支部11月例会



令和6年11月22日(金)に福岡市博多区の八百治博多ホテルに於いて会員50名に参加いただき日本道経会福岡支部全体例会を開催しました。「顧客づくり・モノづくりと致富の経営」のDVDを視聴し、会員企業2社の企業紹介・経営体験発表をいただきました。

その後、UA ゼンセン福岡支部 長嶋良昭氏をお招きし「経営をとりまく労務リスク」と題してご講演をいただきました。

ご講演では、日本の主な労働団体の現状とUA ゼンセン（全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟）について詳しくご講話くださいました。

日本には主な労働団体が3つ存在しており、その中には過激な思想をもとに活動している団体があり、企業への要求、活動も非常に厳しいとのことでした。

また、自社に労働組合がなくても、個人単位で加盟できる労働組合である合同労組という組織が存在し、活動が活発になってきているそうです。個人加盟型の組合は企業との交渉を有利に進める為に本社や店舗、経営陣の自宅等で過激な街宣行動を行ったり、インターネットで「ブラック企業!」と会社を批判する情報を流し、攻撃を仕掛けてくるそうです。

UA ゼンセン（日本最大の産業別労働組合）はその様な過激な合同組合から会社と組合員を守る為、日々従業員の不満や意見を集め会社と交渉して改善する取り組みを繰り返し行っておられるそうです。そのことが結果として会社の経営基盤を支える仕組みになり、過激な個人加盟型労組から企業を守ることになるとのことでした。

労働組合がない企業においては、労務紛争など他人事の様につまらぬのがちですが、自社の社員が個人加盟型労組に加盟したり、加盟している人材が入社すれば状況は一変してしまいます。このことから私たちはその様なリスクを考えておくことと同時に、道経一体の経営を目指し真剣に取り組んでいかなければならないと思います。

株式会社サイキ 佐伯 卓也



令和6年12月27日（金）午後5時20分から8時10分まで、橿原神宮養正殿において例会と懇親会が開催されました。例会の講師には株式会社リビアス 代表取締役社長 大西 昌宏氏をお迎えし、「経営者は教育者として社員によき人生を」をテーマに講演していただきました。年末にもかかわらず32名の方が参加していただき、講演の後には、大西講師を囲んでの懇親会で忘年会も兼ねての楽しいひと時を過ごさせていただきました。

大西講師は、平成14年に理美容総合ビジネス企業を創業され、現在は関西・関東に220店舗、社員470名を超えるまでに成長されています。

大西講師は、ご両親が大阪で複数の理髪店を営んでおられ、その影響で、大学卒業後理容師の国家資格を取得され、3店舗あった両親の店の一つで働くようになり、28歳で自分の店を出店され、利用組合には加盟せず、独自のやり方で進めてこられました。年中無休で夜も営業するなど顧客の利便性を考えての営業を展開され、また、子育て中の美容師中心の店舗を開店し、日・祝日は定休日とし平日は午後5時に閉店し、家庭と仕事の両立ができるようにして従業員を確保し、店舗数を増やしていかれました。そして、従来の来店型店舗のほかに、老人ホームや病院などに理容師を派遣する派遣型事業も始め

られ、その後、平成14年に「関西理美容サービス」（後に「リビアス」と改称）を設立し二つの事業を分けられ再スタートされました。その後、スーパー銭湯にカットサロンを出店したり女性顔剃り専門店を出店したりして規模・業績は拡大し現在に至っているということです。

その間、人材を確保するために、先ず、仕事の効率を上げるために環境整備（整理・整頓）を徹底して継続し、その結果、社員が成長し業績も変わる。それと同時に心の教育、「伝統（恩人の系列）」の観念を取り入れて研修を行い、先人や恩人に感謝する心を育て人間力を高め、経営者と価値観を共有でき人材を育てることに力を注いで来られています。また、共通の道具と共通の言語、すなわち経営計画書・リビアス用語集を用いて従業員の意識共通化・一体化を図り、マネジメント教育を推進して若い社員を積極的に店長に任命し自分達で計画を立案できるように育てておられます。また、平成26年には「理容師美容師養成学校スタリアビューティカレッジ大阪」を開校し、理容師の資格を持っていない方も入社後に学びながら資格を取得するシステムも整えられているということです。

最後に、経営者は教育者、施す教育によって社員の人生に大きな影響を与える存在であることを肝に命じ、素直、謙虚、感謝の心で、チャレンジし続け、自分自身の成長を目指していきたいと話を締め括られました。

今回の、大西講師のご講演で、従業員を育て、従業員が幸せになり喜んでもらえる経営者になることがいかに大切か、あらためて感じました。感謝。

事務局 上田 豊彦

本会報のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：**日本道経会**

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局 だより

2月の寒い時期となりました。先日社内です防災訓練があり参加させていただきました。もしもの時の準備、日頃からの心がけの大切さを学びました。「備えあれば憂いなし」しっかり心がけようと思います。

本部事務局